今、問われる学生の自治

去る5月29・30日に自治会の新三役を決定する選挙が行なわれたが、投票率も低く、選挙期間延期となった事は、まだ記憶に新しい。この結果からも明らかな様に、東薬生の学生自治に対する関心のなさがうかがえる。この事に関し、根岸新執行委員長は、「全学生に意識を持たせるというのは難しい問題ではあるが、どんな小さな事でもいいから、問題をとりあげ、自分たちがこういう活動をしているという事をわからせて、関心を持たせるしかない。」と語っている。

現状は、やはり学生のほとんどが執行委員会や、自治委員会が、一体どんな活動を行っているのかを把握していないと言えるであろう。そこで、執行委員会と、自治委員会が、どの様な活動を行なっているのかを、一言ずつ分析する。

まず執行委員会の細かい仕事をあげるなら、各クラブの部員数や、学生大会の出席人数を調べる事、部室棟の管理、市・バイクの駐車券の発行などの役割がたくさんある。

また、学生の代表として、公式文書、学内連絡会議を通じ、大学と直接交渉することもある。実際、ちょうど二年前、三年次分科から、四年次分科への移行問題や、カリキュラム改定問題について、大学側との交渉を行なった。

東京薬科大学学生自治会規約には、『自治委員会は学生大会に次ぐ議決機関であり、常に全会員の意思を反映すべく、学級大会と密接な関係を保ちつつ執行委員会を督励しかつ援助する』とあり、また『執行委員会は、本会（東薬大学学生自治会のこと）の最高執行機関であり、学生大会、並びに自治委員会の決議事項を忠実に執行する』とある。

つまり、各委員会にかかわらず、学生大会、自治委員会の決議事項が、学生全員の団結と努力によってはじめて実現されるのである。

これは（例えば施設問題・教務問題・交通問題等）各クラスの自治委員が中心となり、学級大会を開き、クラスでの意見をまとめて自治委員会に提出する。自治委員会では、その問題について討議し、その事項は執行委員会で忠実に執行されるわけである。これが本来の姿であるが実際にはいまだにいい程、学級大会は開かれておらず、自治委員会の話し合いすらない。

学級大会を開く時間はどうしても放課後となってしまい、学生が残ってくれない。と言う事である。従って、個々には意見があっても、その声が自治委員会や執行委員会にとどかないのである。

これでは学生自治会の活動は全くと言っていいほど学生大会の決議事項を無視した形で行なわれ、学生大会は形骸化してしまう。

「我々は、東薬生として、学問の自由と自治精神を尊守する為、東京薬科大学学生自治会の一員として、学生大会の決議事項を無視した自治会の活動に対しては、断固として闘う姿勢を示すべきである。

東京薬科大学新聞
発行所
東京薬科大学
学生新聞
八王子市堀之内
1432－1
☎0426(76)5111

JUNE

後援会費好利用

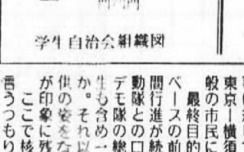
ベンチの設置について

現在コミュニティープラザやアカデミックプラザに白いベンチや灰皿、又、平山、豊田に向かうバス停にもベンチが置かれている。これらのベンチ等がどのような経過で設置されることになったのかを庶務課に問合わせたところ、これらのベンチは後援会が購入したということである。

ベンチは13脚、バス停には5脚、アカデミックプラザに2脚あり、灰皿はコミプラに3台設置してある。さらに灰皿を追加し、ゴミ箱をコミプラに置き、薬草園に現在建設中の温室付近にもベンチを設置する予定である。これらのベンチを購入するにあたっては、学生部からこれを発案して、後援会費から一三〇万円の予算をこれにあてることとなった。ベンチは一台当り定価六八、九〇〇円だがこれの60／67%引で購入出来た。又ベンチを実際に利用する上で、灰皿、ゴミ箱の必要性が感じられる。そこで当初予定になかった灰皿、ゴミ箱を購入することになった。費用の方はこれも60／67%引で購入した。ベンチは一台当り定価六八、九〇〇円だがこれの60／67%引で購入出来た。又ベンチを実際に利用する上で、灰皿、ゴミ箱の必要性が感じられる。そこで当初予定になかった灰皿、ゴミ箱を購入することになった。費用の方は（今年はビジネス百科と現代用語辞典）の贈与、災害保険の負担、温室の建設費用の一部負担、等がある。

購入の際、デザインの選択・値段の決定は庶務課が行なう。現在の管理は施設課が外部の業者に委託して掃除等を行っている。今は学生に入れないのでベンチを利用している学生も多く、ベンチの設置は良い結果となったと思われる。

その他、今まで後援会では毎年入学祝い品に東薬の校章を配っていたが、今年から実習の時間に着用する白衣を贈った。又、これからの予定としては、秋に外部の方をお呼びして講演会を開く、就職に関する本を増加購入し、図書館にもこれを置く、新しい温室にも置く植物を購入する、等が挙げられている。継続的に行なう事については、卒業祝い品（今年はビジネス百科と現代用語辞典）の贈与、災害保険の負担、温室の建設費用の一部負担、等がある。



学生自治会組織図

薬味

今月の17日、日曜日に反核運動のデモが行なわれた。最近の人もいると思われるが、"6月のうちに、横須賀にあるアメリカ海軍基地に、トマークと呼ばれる核爆弾が配備されるに対して一人の噂が流れその事に対してデモ隊が立上がり東京―横須賀間を行進し、一般の市民に反核を呼びかけた。最終日的地での横須賀のベースの前では約一時間もの間行進が続けられ、中には機動隊との口論も見られたデモ隊の総勢は社会人、大学生も含め一万人もいただろうか。それ以上に、その中に子供の姿をなんども見かけたのが印象に残っている。

ここで核反対のデモを云々言うつもりはない。ただ大人の中に混じって、政治的にも何等関与していない幼い子供達が、なぜこのデモに参加しなければならないか、何かわからない。当然親達からも、何も知らずに連れ出されたのだろうが、そこを押しつける行動は考えものである。子供は素直な目で大人の社会を見つめていき、それなりの考えを持ち、社会を把握していくものである。

研究室訪問

薬用植物学教室

今回、初めての試みとして「研究室訪問」を行った。

第一のターゲットとしたのは、ここ薬用植物学研究室である。下村先生、及び卒論生の方々の声を聞いてきました。

研究棟4階にある薬用植物学研究室は下村教授以下、指田助教授、助手2名、院生3名、薬草園関係者2名、卒論生22名というなかなかの大所帯であった。主に植物について研究を進めているということは、この研究室の表看板からも想像がつく。

この部屋の「顔」である下村先生御自身としては、植物の内部態に関する研究に従事されている。

構造状態・遺伝形質を知ることにより、薬用植物をいかに良品質に保つかといった品質管理に関する問題がその対象となる研究である。この研究はその植物か類似植物と混同されて扱われていないか、ようなことの判断の役にたつという。

内部形態の観察を行うのであるから当然顕微鏡を使用することになるが、これはこの研究室のいわゆる特色であるといえる。だからといって別にそれほかりを行なっているわけではない。この部屋で進めている研究は、前述した下村先生御自身の研究の他に、薬用植物の含有成分の構造決定・組織培養などが行われている。また、構造決定については、未知成分を抽出し、薬用として知られていないものなどについても行なわれている。

植物を材料としてその形態や成分・生物一化学といった二方向から植物をもう一度捕えていく部屋であるともいえる。

取材の中で下村先生も述べられていたが、開発的なハデさはないが、薬を取扱っていこうとする者にとっては大変重要な研究なのではないだろうか。

今まで挙げた色々な研究内容の中で、この部屋の卒論生が主に手がけているのは、未知成分の構造決定である。ちなみに昨年までの卒論の研究課題のほんの一例をあげておくと

☆キラニソウの成分研究ー　昆虫脱皮ホルモンについて

☆土木香成分研究

☆ヤクシマソウ乳液中の苦味成分の研究

等である。最後の研究課題については、これがもとになり薬局方の確認試験が定められたという後日記がある。

その他のものについてもその代で終わるものもあればそれが予試験的な役割を果たして次代に継承される場合もある。

また卒論生達は以上の様な自分の研究課題の他に、有機化学ゼミ、成分ゼミ、形態ゼミ、薬品ゼミ等を聴講するかは選択でこなしている。どのゼミも研究をすすめる上において必要なものであり、注意をひくのは有機化学ゼミである。未知成分の構造決定に有機化学が必要とはいえ、やはり薬にいる限りこの科目つい てまわるのか・・・。

取材中特に印象に残ったのは「一けじめ」ということである。これはこの教室で声をそろえて言っている事でもあり そのまま村先生の生活信条でもある。遊ぶ時は遊び、やる時はやるといった姿勢がこの教室にはよく浸透している 結果的にはこの方が集中しやすく、研究もやりやすいと卒論生も異口同音の反応であった。

最後に下村先生よりこの研究室になんらかの興味を抱いてやってくる人に対して一年という短い期間で、植物というものを研究することを通じて「研究の仕方」、「ものの考え方」といったものを体得してほしい。」という言葉をいただきました。

スコープ　医薬分業　その①

最近、薬剤師の活動領域は目覚ましく拡大してきている。二兆円産業と言われる製薬業界から、官庁、病院まで様々な職場で活躍している薬剤師の資格を基礎とし、語学力やコンピュータ技術を駆使して多様化、複雑化した仕事に携わる人も多い。

しかし、これだけ多様化した薬剤師の活動領域においてその薬剤師の職能は今だ確立されていないのが日本の現状である。その最も顕著な例が医薬分業問題であろう。

医薬分業とは、医療は医師、薬は薬剤師と明確に分業し、薬剤師は処方せんにより調剤、薬歴の管理を医師、患者に伝達することである。

かといって、学生側が、あまり意見を持っていないわけではない。

学生大会は、自治会における最高議決機関である。学生大会は前期一回ず つ定例会が開かれる。学生大会では議案として事前に承認された問題を討議する事を主な目的としているが、この学生大会で緊急動議として要求を出すことができる。この緊急動議はあくまで緊急なのだということをわかっている学生は少ない。

昨年度後期学生大会に於いて実にたくさんの緊急動議がだされたが、そのほとんどの問題は細部にわたりすぎていたり、これらから細かな問題は本来、学級大会で話合うべき問題であって、時間の限られている学生大会で話合うべき問題ではない。

これらの事からもわかる様に、学生側からの問題提起を学生大会の時だけでなく、もっと積極的に学級大会を行なっていけば、執行・自治両委員会の活動も活発になるのである。

自治委員会の只野新執長は一今年は、自治委員会のイメージの悪さをなくしていきたい。」と語ってくれました。また、「やはりイメージが悪いという事は、委員会が何をしているかわからないということからきているだろうから、今年は委員会の中身をガラス張りにして見せていきたい」その為に、これからは行動を起こし、購事の報告を立看板・ビラ等でおこなって行くそうである。

両委員会とも、学生に対する要望は、自治会活動に関心を持ってもらいたいという事であった。

対外試合結果

☆空手　（予定）
7月14・15日（東京体育館）
和道流世界大会
ひと言：今年はV4を目指していてがんばります。また、完全優勝をやり遂げたいです。

☆サッカー部
5月13日　対東医歯大5対0
5月20日　対慈恵医大1対1
5月27日　対千葉大　4対0
6月3日　対独協大　0対2
6月10日　対自治大　3対1
6月17日　対順天大　1対0

☆柔道
6月9、10日
東日本春期薬連薬剣道大会
1勝3敗3分け
ひと言：負傷者続出の為ベストメンバーが組めなかった。秋には優勝できるだろう。

☆剣道
関東医歯薬剣道大会新人戦
3回戦敗け
ひと言：7月の全日本薬学生剣道大会を目指し努力して行く。

☆ゴルフ
5月30日（栃木県東ノ宮cc）
第60回春期関東理工系リーグ戦
浅見光徳　124　二連勝
滝川　武　148
永田幸也　152
木之下信一　167
古田武雄　169
団体戦　リーグ3位
ひと言：個人戦では春、秋連覇、団体戦ではBリーグ昇格目指しがんばっています。

☆バスケ
6月3、10、17日
関東医歯薬科大学籠球大会
男子　10日　対東邦医82対66
女子　対昭和大医　対東女医大　対北里大薬　対日大松戸歯
6月10日　医歯薬連　対昭和大　0対2

☆野球
東都大学軟式野球リーグ（4部1-5部入れ替え戦）
5月23日　対日獣大　6対2
5月24日　対日獣大　5対4

☆ラグビー
6月3日対順天大医　4対13
6月10日対薬大チーム　0対18

☆卓球
東日本薬学生卓球大会オープン戦
男子ダブルス　飯島崇弘・田中恒巳　準優勝
石本尊和・浜田一成　3位
女子ダブルス　中山浩子　優勝
三上洋子・山崎雅子　3位
田村律子・山崎雅子　3位
女子シングルス　山崎雅子　3位

関東学生卓球リーグ戦
男子　5部リーグ優勝
女子　4部リーグ昇格
4部リーグ2位

☆軟庭
5月20日　関東学連
11部1-12部入れ替え戦
対東京医歯大　3対1昇格
6月10日　関東理工系大会
男子　対千葉大　0対3
女子　団体戦一部　優勝
栗原・伊藤組　準優勝
広島・笠見組　8位

学内展

美術部6月10日～26日
学内展のために、みなかへなからも描いた絵です。ぜひ御覧になって作者の性格でも考えて下さい。
場物部6月27日～7月3日
今回は日頃の作品プラス春台宿（信楽焼）の作品を展示しております。個性ある作品をぜひ御覧下さい。
華道ーモダンな感じの作品でした。
写真ー校内の一シーンがよかった。
書道ー
うっとうしい梅雨空のトしかも今日は日曜日、何故我々は印刷をしなければならないのか？
身辺追悼会にせまられつつ新執行第一号の新聞は完成しかも四面。いかがでしょうか

編集後記

高田・森教授に聞く

薬剤師国家試験

厚生省は今年の4月3・4日の両日に実施された59年春（66回）薬剤師国家試験の合格者氏名と大学別合格状況を発表した。八千四百二十三名の受験者の内、合格者数は五千九百八十八名、全体の合格率は七十一・〇九％、過五五年間では最低の合格率であった。

新卒の受験者数は七千三百八十五名、合格者数は五千五百七十名で、合格率は七五・四二％であった。

入学別合格率で第4位である東薬の教務部長の高田教授と学生部長の森教授はこの結果をどう考えているのだろう

Q　我校の今年4月に行われた薬剤師国家試験について。

高田　結構いい線を行っている。柏木、桜木時代には東薬の合格率が全国平均を下回ったこともあった。よその非常に新しい大学で合格率がいいということころは、率をよくするために卒業延期というものをかなりつくっている。55年4月には非常によくできたのが一人であった。この後、教授会でも色々と論議され、必ず捨てるパーセントを狙わなくてよいのではないか、卒試のボーダーラインをきびしくすれば率がよくなるのは目に見えているし、ボーダーラインすれすれでも国試を受ける確率が50％くらいあれば、そういう者は受けるチャンスを与えようではないかという意見の一致を見ている。実験コースは実験をやや重視、論文コースは例年通り文献を調べて論文をまとめる。論文コースは図書館で文献を調べて論文をまとめるのが、Bコースの人については10～12月まで特論をやる。これは特に国試に関連のある科目の先生方が出て、今までのまとめのような授業をする。そして各先生の講義が終わる度に小さな試験があってそれに関して自主ゼミをやったり教室によっては先生方が面倒を見てくれる部屋もある。とにかく12月を過ぎれば試験もないので国試に専念できる。卒試は八王子に移転してきてから全員に2回受けさせることになっている。2週間のインターバルで2回の試験を受けるが、その科目は国試と同じスタイルでやるので卒試の勉強が即国試の勉強になる。大学では国試に対してはそれだけのことをやっている。それで十分だと思っている。それ以上の国試に対して強化するつもりはない。

森　若干テストの結果を甘く見てはいるが、現実に卒試で落ちる4年生は四〇〇人中11人である。まあ暗記する人も理解する人もいるが、やはり理解している人の方が労力が少なくて済むのではやい。高田　国試には各科目に対して足切りがある。例えば薬事関係法規が10問中1・2問しかできなければ、他のどの科目がよくても落ちる。卒試の三〇〇点満点で二〇〇点以上の人でも落ちた人はいる。これは足切りにかかったのであるか、または、油断したかどちらかであろう。国試はある程度は記憶力だから卒業の直後に受けるのが一番楽だ。春、失敗して企業などに入ったら営業成績をあげるために大変なとき、合間を縫って勉強するのは大変だ。それでも9月に受かればよいがそのときだめだった人はもう合格する確率は非常に少ないあとは、家が薬局で仕事をしないで勉強するとか、予備校に行ったりしたという人が何年かたって合格するケースである。かなり優秀であった人でも、国試に落ちて営業の仕事がさっぱりいかない人も累積すればかなりない。営業でもやがて役付きになったりすると免許が必要になってくる。

Q　問題の傾向が変わってきているが、それについての対策は？

森　変わったといっても教えていないことが出るわけではない。卒試のとき、前の問題を見ながら応用して出すということは行っている。確かに、形式が変わってきたりするとか、全然教えていないことが飛出してくるということもたまにはある。しかしそれはそれだけのことをやっていてもそのような問題はやがて消えていくものだ。奥白い卵だ。まもなく、屋根や道路にはピチャンバシャと卵が激突する音がなりだした。

次の朝ニュースでは卵の話でもちきり。商売上手の収は卵をしこたま集めて売り始める。諸物価高騰の折、小市民の諸君は卵を摘き集め本日の朝食は卵の目玉焼き。まもなく屋根や道路にはピチャンバシャと卵が激突する音がなりだした。

次の朝ニュースでは卵の話でもちきり。商売上手の収は卵をしこたま集めて売り始める。諸物価高騰の折、小市民の諸君は卵を摘き集め本日の朝食は卵の目玉焼き。まもなく屋根や道路にはピチャンバシャと卵が激突する音がなりだした。

Q　今年の薬業新聞を見ると、ベスト10と不合格ワースト10が載っていて上位10位の内、私立大学が9校、ワースト10ではほとんどが国立という傾向は毎年そうだがこれは正しい姿ではない。

高田　国の試験用で薬剤師を養成しているわけだから。誰かに国立の学生は営業の関係に行きたくない。研究方面に行くのだから免許など必要ないという気持ちもあるだろうし、国試なら受けなければいいのに受けて落ちていく。

森　薬学の特殊性も関係する。医学の場合偏差値の上位の学校は皆、国試がよい、医学を修めたら医師になるというのが基本だから。薬学の場合は薬学はやるが、薬剤師にならないというのがある。国試用にアレンジした形で出している。これは国試のトレーニングもねらいって受験者の1／3が落ちている。新卒ベストの人は国試を受けるが、ワースト10の人は受けない。

Q　今年の卒業生は古いカリキュラムで受験して3年で分科している。今年の4年生からは新カリキュラム改定となる。

森　それはカリキュラム改定というような分科になった就職のときには、学科による就職ではなく東薬科大学の卒業生が欲しいと企業のほうで言ってきている。

高田　製薬学科は、製薬技術者の養成であり研究志向だってもいいという人がいてそれぞれの学科の率が下がってきたということもある。来年はそういうことはない。

Q　男女別合格率について。

高田　よその大学で成績の上位のところは女子の率が多いその他のところは女子が7割男子が3割である。東薬は、3対2で男子の方が多い。学生数も他の薬大の2倍の数があるのだからまあまあの線であろう。しかし、パーセンテージは良いけれど、実際に落ちている人の数は受験者が多いので10パーセントと言えば何十人となっている。そこらへんは深刻に考えざるを得ない。

今年は、東薬の合格率が低くなり、全国平均も1割強低くなったが・・・。

森　国試は難しくなることはあっても易しくなることはない。近い将来年2回の試験がない。毎回必ず新しい傾向の問題が何題かづつ出題されている。本学の場合卒試からの勉強方法をやって、国試用にアレンジした形で出している。これは国試のトレーニングもねらいって受験者の1／3が落ちている。新卒ベストの人は国試を受けるが、ワースト10の人は受けない。

Q　我校の今年4月に行われた薬剤師国家試験について。

高田　結構いい線を行っている。柏木、桜木時代には東薬の合格率が全国平均を下回ったこともあった。よその非常に新しい大学で合格率がいいというところは、率をよくするために卒業延期というものをかなりつくっている。

男子百パーセントを狙わなくてよいのではないか、卒試のボーダーラインをきびしくすれば率がよくなるのは目に見えている。しかし、ボーダーラインすれすれでも国試を受ける確率が50％くらいあれば、そういう者は受けるチャンスを与えようではないかという意見の一致を見ている。実験コースは実験をやや重視、論文コースは例年通り文献を調べて論文をまとめる。論文コースは図書館で文献を調べて論文をまとめるのが、Bコースの人については10～12月まで特論をやる。これは特に国試に関連のある科目の先生方が出て、今までのまとめのような授業をする。そして各先生の講義が終わる度に小さな試験があってそれに関して自主ゼミをやったり教室によっては先生方が面倒を見てくれる部屋もある。とにかく12月を過ぎれば試験もないので国試に専念できる。卒試は八王子に移転してきてから全員に2回受けさせることになっている。2週間のインターバルで2回の試験を受けるが、その科目は国試と同じスタイルでやるので卒試の勉強が即国試の勉強になる。大学では国試に対してはそれだけのことをやっている。それで十分だと思っている。それ以上の国試に対して強化するつもりはない。

森　若干テストの結果を甘く見てはいるが、現実に卒試で落ちる4年生は四〇〇人中11人である。まあ暗記する人も理解する人もいるが、やはり理解している人の方が労力が少なくて済むのではやい。高田　国試には各科目に対して足切りがある。例えば薬事関係法規が10問中1・2問しかできなければ、他のどの科目がよくても落ちる。卒試の三〇〇点満点で二〇〇点以上の人でも落ちた人はいる。これは足切りにかかったのであるか、または、油断したかどちらかであろう。国試はある程度は記憶力だから卒業の直後に受けるのが一番楽だ。春、失敗して企業などに入ったら営業成績をあげるために大変なとき、合間を縫って勉強するのは大変だ。それでも9月に受かればよいがそのときだめだった人はもう合格する確率は非常に少ないあとは、家が薬局で仕事をしないで勉強するとか、予備校に行ったりしたという人が何年かたって合格するケースである。かなり優秀であった人でも、国試に落ちて営業の仕事がさっぱりいかない人も累積すればかなりない。営業でもやがて役付きになったりすると免許が必要になってくる。

Q　問題の傾向が変わってきているが、それについての対策は？

森　変わったといっても教えていないことが出るわけではない。卒試のとき、前の問題を見ながら応用して出すということは行っている。確かに、形式が変わってきたりするとか、全然教えていないことが飛出してくるということもたまにはある。しかしそれはそれだけのことをやっていてもそのような問題はやがて消えていくものだ。奥白い卵だ。まもなく、屋根や道路にはピチャンバシャと卵が激突する音がなりだした。

次の朝ニュースでは卵の話でもちきり。商売上手の収は卵をしこたま集めて売り始める。諸物価高騰の折、小市民の諸君は卵を摘き集め本日の朝食は卵の目玉焼き。まもなく